



リクナビ進学ブック
じぶん未来BOOK

1学年秋の科目選択に向け 自己理解と目標設定を同時に進める

— 神奈川・県立 麻溝台高校 —

取材・文／太田知子



キャリアサポートグループ
浦山稔先生

School Data

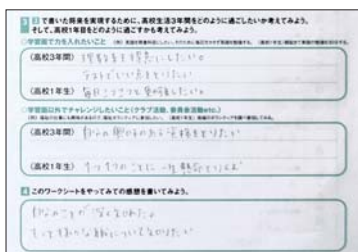
創立1974年／普通科
生徒数1077人(男子546人・女子531人)
進路状況(2013年度)／大学進学78.1%、短大進学4.8%、
専各進学6.3%、就職0%、その他10.8%
神奈川県相模原市南区北里2-11-1
TEL 042-778-2731
URL www.asamizodai-h.pen.kanagawa.ed.jp/

2013年度1学年の 進路学習の流れ

4/15	適性検査[R-CAP]
4/22	勉強の仕方についての講話
5/13・27	検査・テスト振り返り
6/10	教育実習生の話を聞く会
6/17	なるには講座
6/24	2年次選択科目説明会
7/8	大学(学校)見学調べ
夏休み	三者面談
9/2	学校見学発表会
9/30	高校と大学の違い
10/7~28	小論文模試演習
11/11	受験学力測定テスト振り返り
11/25	「生き方・働き方」講演会
12/9~2/24	基礎学力養成講座
3/17	1年間の振り返り・まとめ

総合的な学習の時間とLHRを使って年間計画が組まれた。2学年進級時の科目選択では、数学Bを履修する場合、理科2科目が必修となり、履修しない場合、古典や政治経済を履修することになる。志望校決定に関わる重要な選択だが、例年、安易に選んで失敗・後悔する生徒がいた。今年は興味や関心、適性、将来就きたい仕事などを考えたうえで選ぶ生徒が増え、浦山先生は1年間を通じた進路学習の成果を感じている。

『じぶん未来BOOK』の ワークシートの記入例



ワークシートをやってみた感想を書く欄には「自分にも伸びしろがあると気づいた」「もっと自分のことが知りたくなった」など前向きなコメントが多くみられた。「R-CAP」を「やって終わり」ではなく、「じぶん未来BOOK」とワークシートを使って目標設定まで展開できるのが大きな特色。「ファイルに綴じてあるので、3年間を通して何度でも見返し、役立てられると思います」と浦山先生。

麻溝台高校では、ほとんどの生徒が進学を希望する。しかし志望校を決める際は「とりあえず〇〇大学」と、学校の知名度や偏差値を基準にするケースが多かった。キャリアサポートグループの浦山稔先生は、「進路決定は人生の節目となる大事な選択。もっと多角的に考えてほしい」という考えのもと、同校に赴任した4年前からキャリア教育の充実に力を入れてきた。

「決めつけや思い込みを捨て可能性の広がりを感じよう」という考えのもと、同校に赴任した4年前からキャリア教育の充実に力を入れてきた。1学年の総合的な学習の時間に適性検査「R-CAP」と「じぶん未来BOOK」を導入したのは2012年度から。その主な目的は、2学年進級時に必要な科目選択の納得度を高めることにある。流れとしては、まず4月に「R-CAP」を実施。5月には生徒と教員それぞれを対象に、診断結果の活用方法についてリクルート主催の解説会を開催した。これをもとに各自が「じぶん未来BOOK」を読み、付録の「未来に近づく方法をイメージして

みよう」というワークシートに取り組み。2013年度、1学年の担任でもあった浦山先生は、「R-CAP」の適性・適職診断結果が、「あなたは〇〇が向いている」という断定ではなく、あくまで傾向や可能性を提示している点を評価。思いがけない性質や能力に気づき、多様な学問分野や職業に興味を持つきっかけになったという。「じぶん未来BOOK」を使ったワークシートに取り組んだ際は、「R-CAP」の結果を参考にしながら、さらに自分の将来について深く考えることができた。「ワークシートには、人生でかなえたい夢、その実現に向けてこれから10年後どうなっていたいか、そのために高校3年間で何をすべきかを書く欄があります。これによって、大学や専門学校は通過点に過ぎず、夢や目標をもとに人生をデザインすることが大切だと気づけた生徒が多かったです」。

夏休みには「R-CAP」の診断結果と「じぶん未来BOOK」を使ったワークシートなどの資料を活用して、保護者を交えた三者面談を行った。主な話題は2学年の科目選択だが、資料を見ながら話す効果は

大きかった。「入試科目に必要な「苦手か、得意か」だけでなく、「何が向いているか」「どんな風に働きたいか」という長期的総合的な視点で選ぶことができたし、保護者の理解や共感も得られた。「成績や日頃の様子からは想像もつかない生徒の適性や能力、夢や志望分野を知ることができ、私にとっても非常に役立つ資料でした」と、浦山先生は教員側のメリットも指摘する。

今回の取り組みがプラスされたことで、職業人講演、卒業生講演などの既存の進路行事が活性化する効果もあった。「自分がその話をどう役立てるか考えようとする姿勢が見られました。進路選択に向けた、内在的な判断軸が作れたと実感しました」。

2学年では志望校研究をじっくり進める予定。これにより自分の意志で納得のいく進路を選ぶ力、目標達成に向けて努力する力が育つことを期待している。